

広島湾再生シンポジウム  
パネル「広島湾再生の実現に向けて」

瀬戸内海研究会議と  
広島県水域環境再生研究会  
の活動から

松田 治

2006. 12. 7  
県民文化センター(広島)

## 2つの研究会の性質

### 1. 瀬戸内海研究会議

国際エメックス会議(閉鎖性海域の環境管理)の勧告に基づいてH4に設立された分野横断的・学際的研究グループ:対象は瀬戸内海  
主な活動:研究、提言、瀬戸内海研究フォーラム、ワークショップ、研究助成などの実施

### 2. 広島県水域環境再生研究会

県の分野横断的研究「広島湾流域圏環境再生研究」(H16-18)の支援と研究成果の実体化「広島湾の環境再生を考えるフォーラム」6回等

## 1. 瀬戸内海研究会議「瀬戸内海再生方策」の提案：経緯のあらまし

H16.9:「知事市長会議」総会：特別要望の採択  
「瀬戸内海の生物多様性を回復し水産資源等の豊かな海として再生するための法整備」

再生方策の検討要請→瀬戸内海研究会議  
瀬戸内海研究会議：検討委員会を設置して検討

H17. 5:「瀬戸内海再生方策に係わる調査・提言」を「知事市長会議」議長(井戸兵庫県知事)に報告

H17. 9:「知事市長会議」総会:特別要望の決議  
「生物多様性の確保と水産資源の回復(豊かな海)」  
と「美しい自然とふれあう機会の提供(美しい海)」の  
実現、国に対しても新たな法整備を要求  
小池百合子環境大臣も出席:藻場干潟の再生を含む  
瀬戸内海再生の重要性をアピール



# 瀬戸内海の再生に向けた提案

## 基本理念

豊かな美しい「**里海**(さとうみ)」の実現

里海とは:人間生活との関わりの中で、  
健全で恵み豊かな環境が維持され、  
同時に**生物生産性**と**生物多様性**が高い  
状態の住民生活に密着した沿岸海域（持続  
的な保全型利用・利用しながらの保全）

新たな関係性の提言

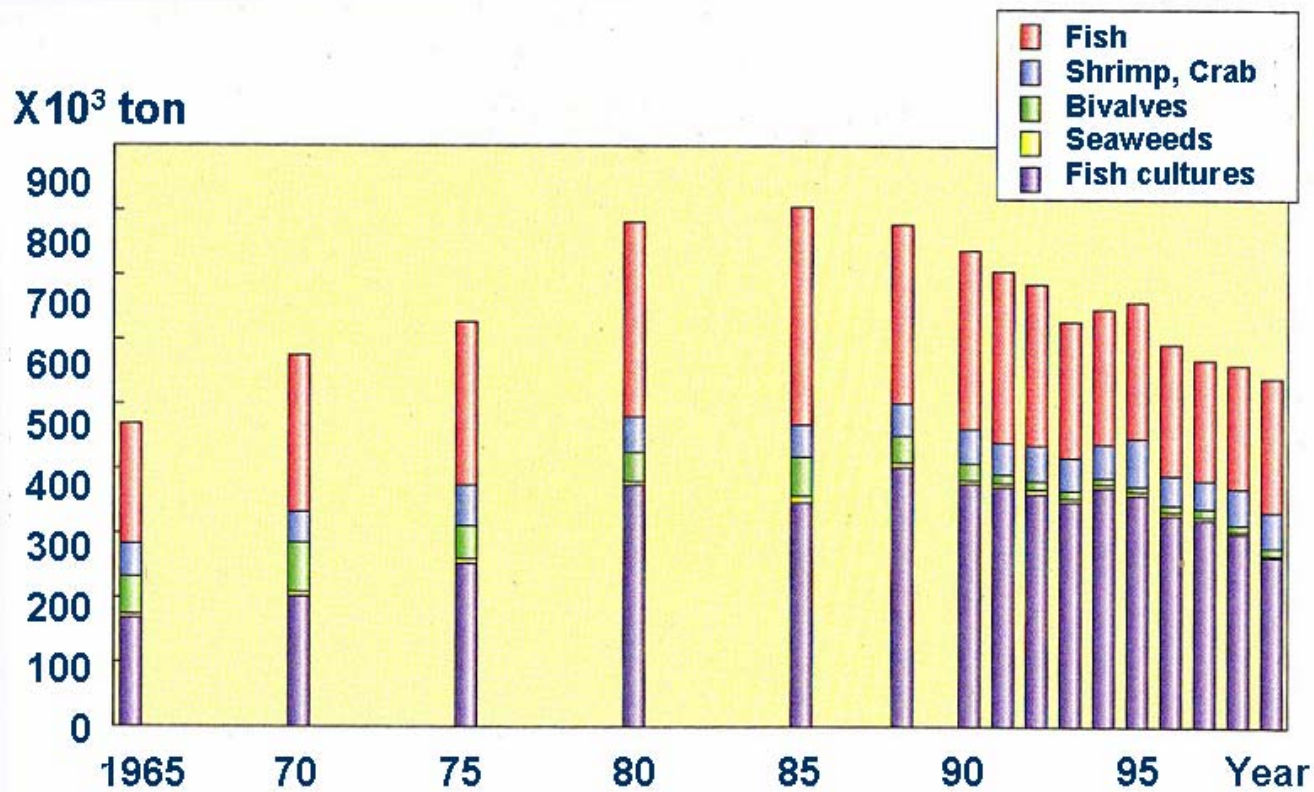
# 瀬戸内海研究会議「提言」書の内容

## I 提言

1. 基本理念
2. 海域環境の変化
3. 流入負荷規制の現状と対策
4. 生物多様性と水産資源の回復
5. 自然の再生と創出
6. 新しい管理制度の導入
7. 住民の参画・協働と地域振興
8. 地域主導型ボトムアップの仕組み

## II 提言のための報文

## 瀬戸内海魚種別漁獲量の経年変化

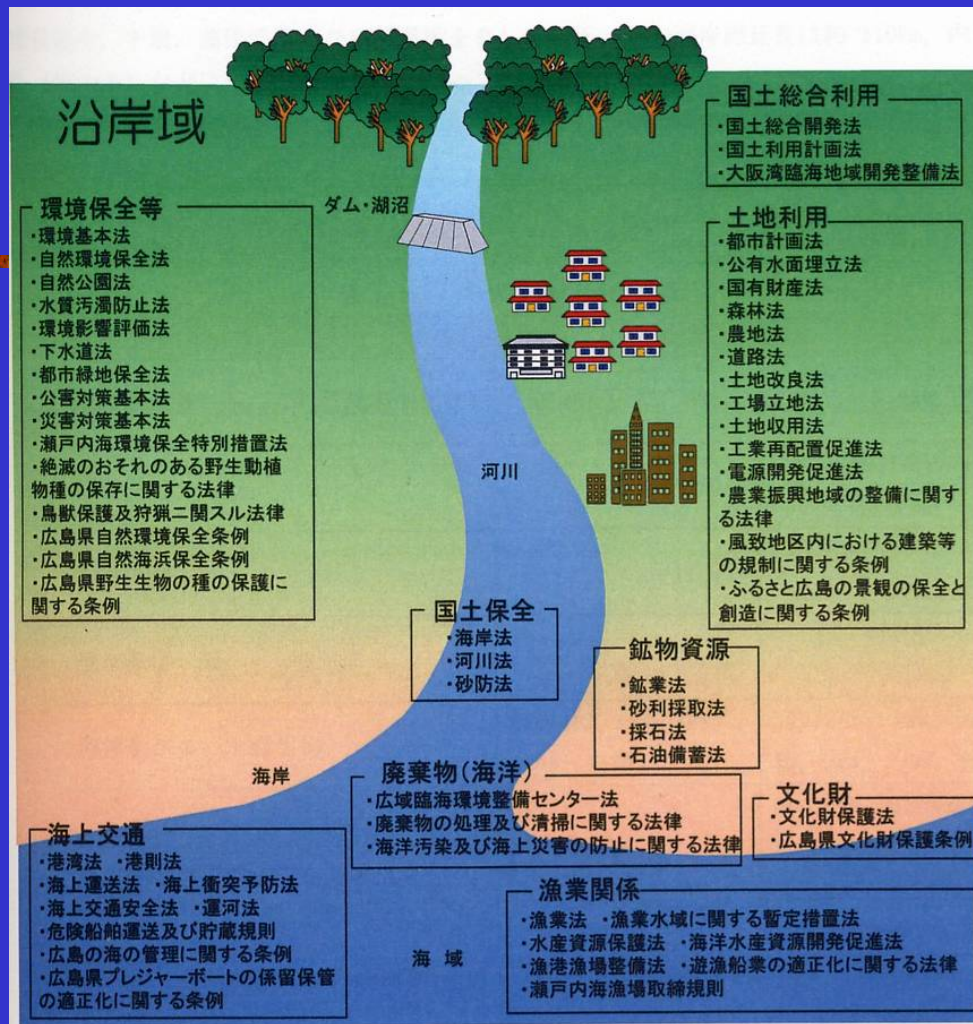


## 瀬戸内海における環境・資源の劣化 （「海の健康度」の低減）

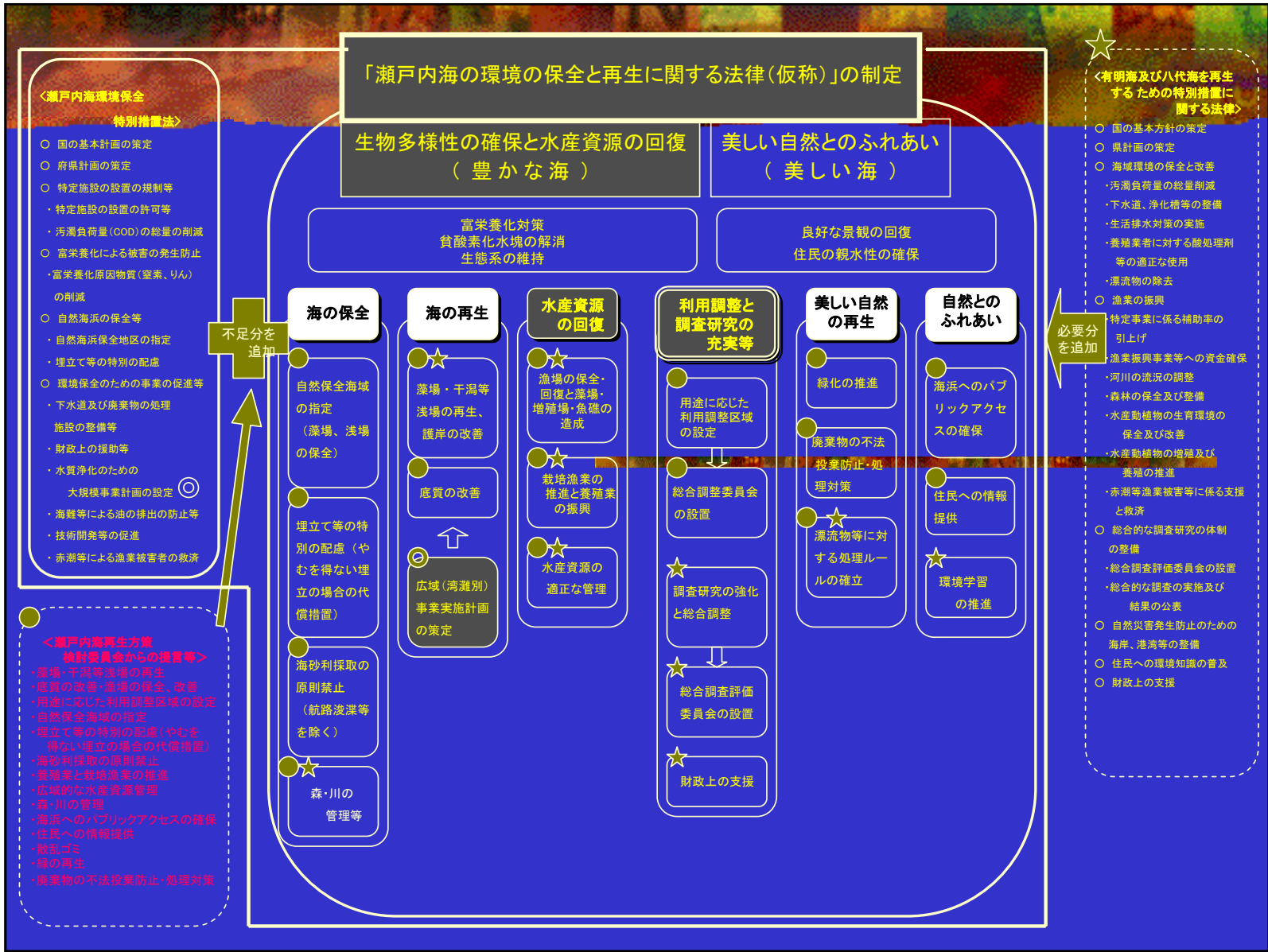
- 赤潮の発生
- 貧酸素水塊の発生
- 底生生物生息環境の悪化
- 生物再生産機構、水産資源水準の劣化  
藻場・干潟・浅場の減少、劣化との関係
- 「物質循環の円滑さ」の劣化
- 「生態系の安定性」の劣化



# 沿岸域統合的管理 の必要性



沿岸域に関わる複雑多岐にわたる法律



H17. 11. 30 瀬戸内海研究会議ワークショップ  
「瀬戸内海の再生に向けた包括的アプローチ」

背景：先進的であった瀬戸内法は大きな役割を果たしたが、新たな課題に対応が難しくなった。

「瀬戸内海再生方策に係わる調査・提言」  
(H17. 5)内容の多角的な検討を通じて新たな法制度に向けた具体的な政策提案につなげる。

その後：知事市長会議要望書H18. 8  
一般向け出版、国会議員へのレクチャー

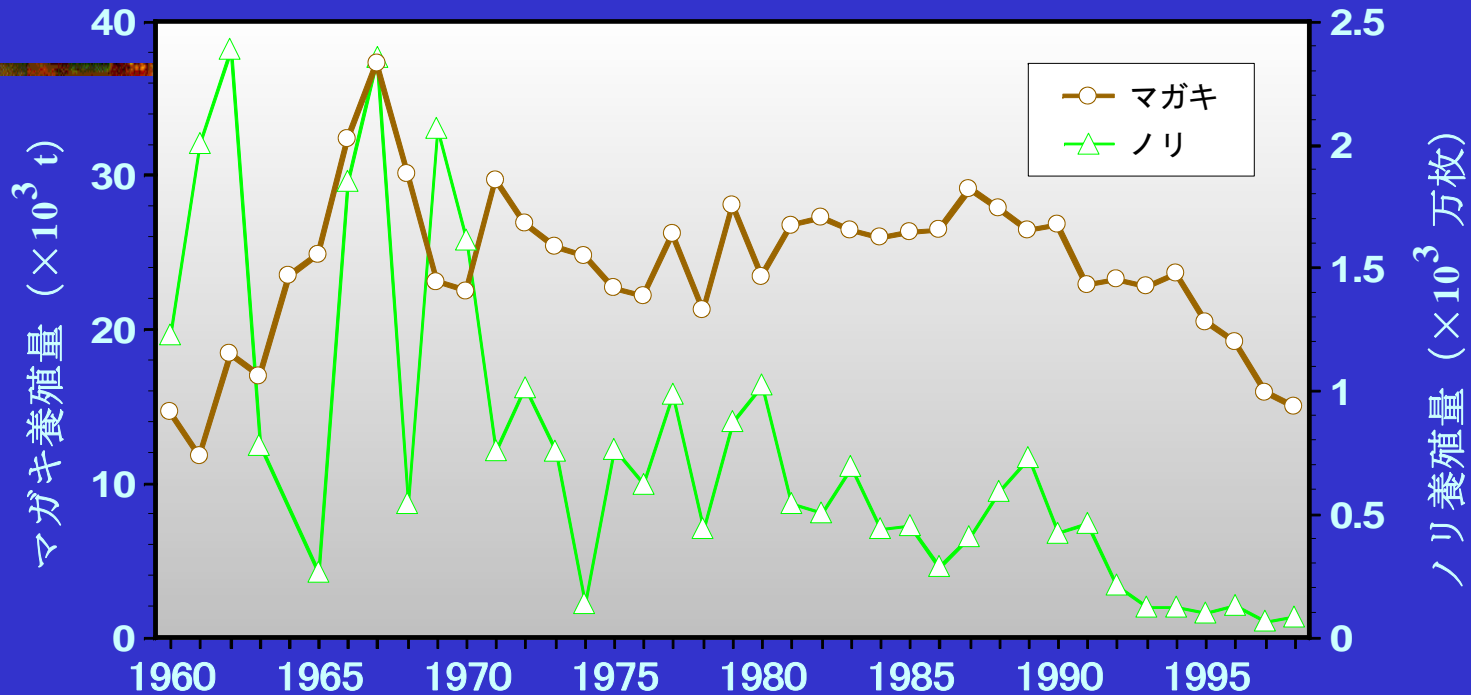
## 2. 広島県水域環境再生研究会の活動：経緯のあらまし

H16. 4:「広島湾流域圏環境再生研究」スタート  
分野横断的(5試験研究機関の連携、画期的)

研究支援と事業化推進、研究成果の実体化などを目的とする研究会を模索

H17. 3. 1: 設立総会と第1回「広島湾の環境再生を考えるフォーラム」  
フォーラム5回と現地見学会、意見交換会等実施

## マガキ養殖量、ノリ養殖量の経年変動

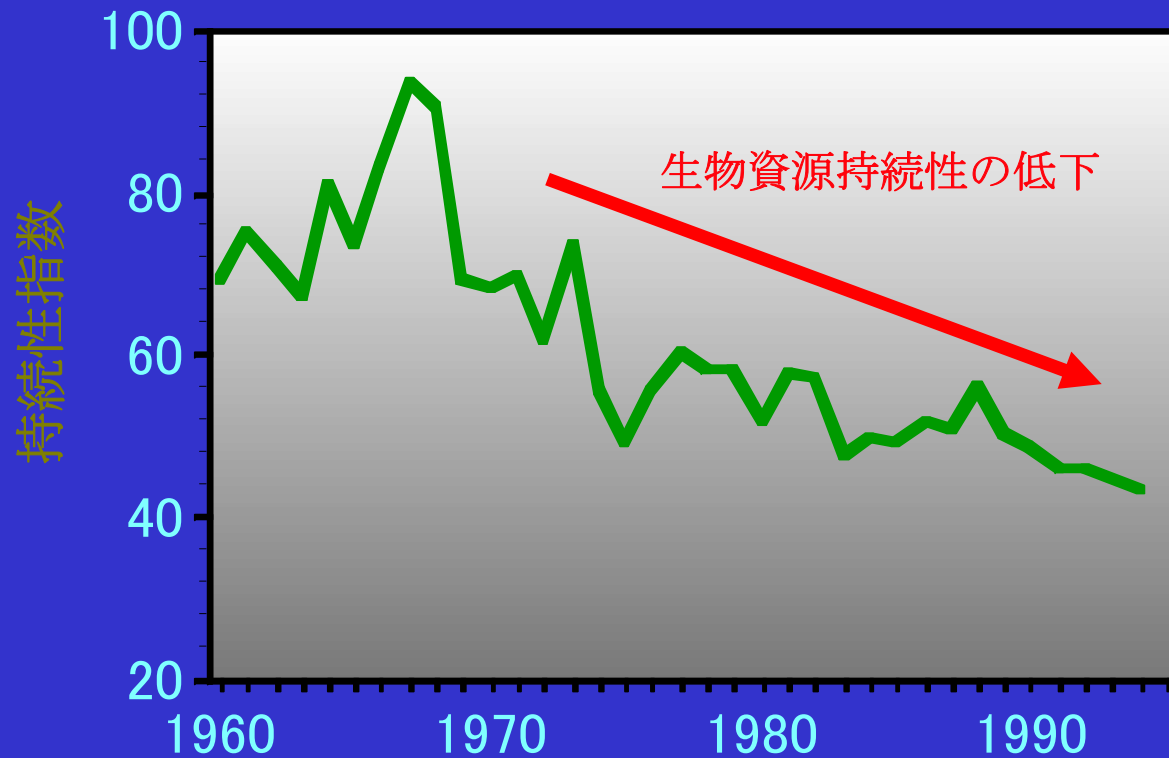


### マガキ養殖環境の悪化

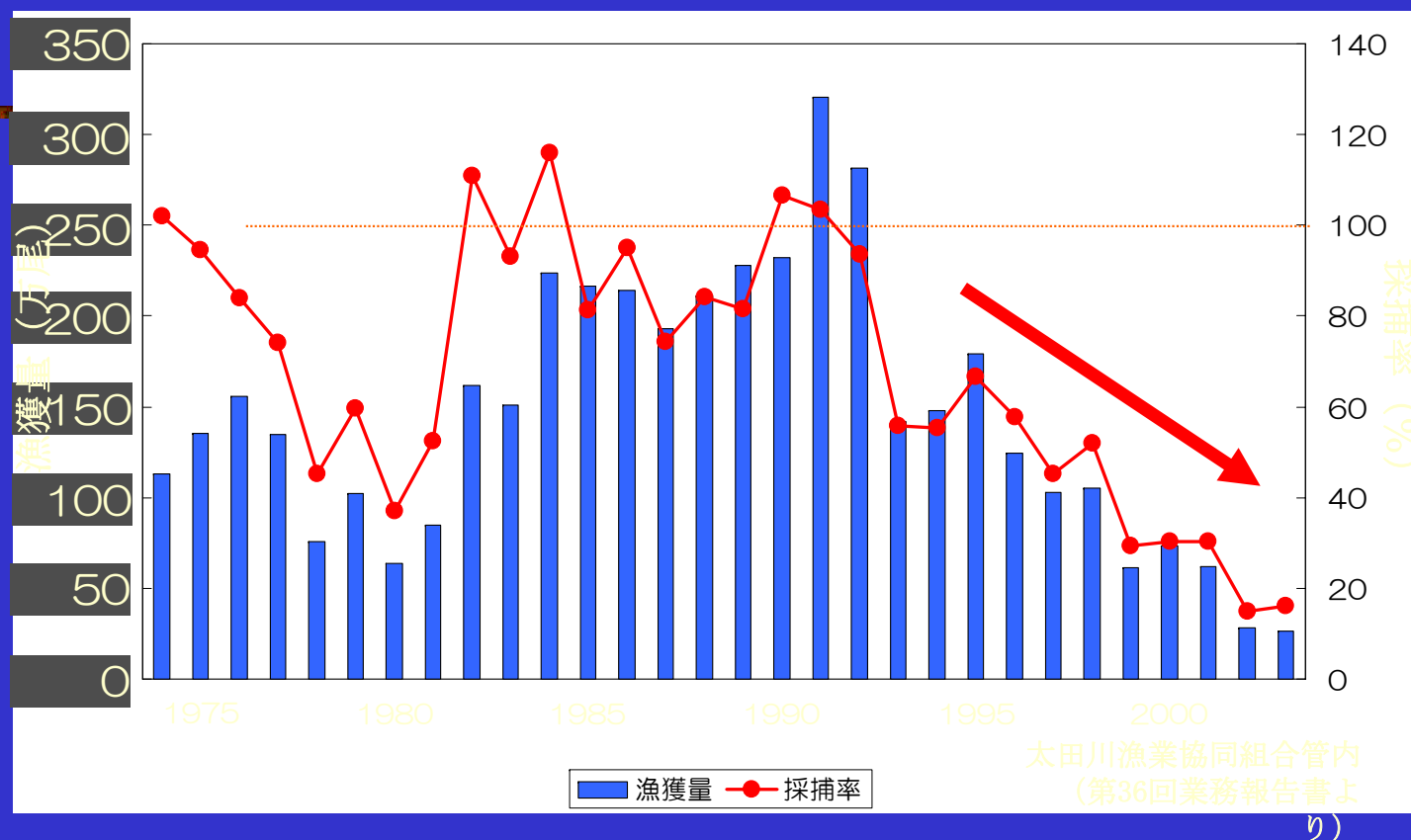
- ・貧酸素水塊の発生、ヘドロの堆積などの底質環境の悪化
- ・有害赤潮の発生などによる斃死
- ・温暖化によるマガキの生理障害、身入り不足 (広島大 上教授)

# 広島湾の生物資源持続性指標（上教授）

生産性→漁獲量，養殖量  
安定性→海岸動物の種類数  
効率性→N回収効率



## 漁獲量と採捕率の経年変動



放流アユも育たない川になってきた (上教授)





# 分野横断型研究プロジェクト 「広島湾流域圏環境再生研究」 成果の活用方向

- ① 広島湾の環境改善へ
  - ② 広島湾の振興，特に持続的カキ養殖へ  
(水産の多面的機能を発揮させる)
  - ③ 広島湾の人材育成と環境教育の推進へ
  - ④ 企業化・商品化に向けて
  - ⑤ 公共事業等への全国展開に向けて
- 第6回フォーラム H19. 3. 13(火)予定

### 3. 両研究会からの「目指すべき方向性」

世界にも稀な高い生産性を持つ素晴らしい海、  
持続的に“海の恵み”をもたらす豊かな美しい「**里海**」の  
実現:そのための包括的アプローチ

森・川・海・・・(空間の包括性)

自然科学・人文科学・社会科学・・・(分野の包括性)

研究・技術・行政・NPO・市民・・・(セクター・省庁)

トップダウンとボトムアップ・・・(意志決定)

環境管理と資源管理、地域の活性化・・・(目的の包括性)

グローバルとローカル・・・(視点の包括性)

「兆し」は見えはじめた